

この時期の病害虫防除の徹底で来春の収量が決まる！

アスパラガスにとって9月、10月は養分の蓄積期となり、とても重要な時期になります。

今年は茎枯病の発生が多いため、台風等の風雨による感染拡大を防ぎましょう。また、気温が下がるので斑点病の感染も心配されます。来春の収量確保のためにも、病害防除の徹底を図りましょう。

9月以降は養分転流の促進効果が期待できる、亜リン酸肥料の「PKゴー」やを薬剤散布に混用し次年度の収量増加につなげましょう。

1. 薬剤散布：ハウス、露地栽培共通（高温時の散布は薬害に注意）

★ PKゴーを薬剤と同じ容器に少量の水で溶かすと凝固する恐れがあります。

散布時期	薬 剤	濃度 (倍)	10a当 散布量	薬剤調合	対象病害虫
9月 上中旬	(PK ゴー) ダコニール 1000 劇 コテツフロアブル	3000 1000 2000	300 リットル	水 100 リットル 展着剤 (ハイパワ-) 20ml (PK ゴー) 33ml ダコニール 1000 100 ml コテツフロアブル 50 ml	茎枯病・斑点病、褐斑病 ハダニ類、オオタバコガ ヨトウムシ、ハスモンヨトウ (アザミウマ類)
9月 中下旬	露地作型【春どりのみ】 (PK ゴー) プレオフロアブル ジマンダイセン水和剤	3000 1000 500	300 リットル	水 100 リットル 展着剤 (ハイパワ-) 20 ml (PK ゴー) 33ml プレオフロアブル 100ml ジマンダイセン水和剤 200g	茎枯病・斑点病、褐斑病 オオタバコガ、ハスモンヨトウ ネギアザミウマ
	露地作型【夏秋どり】 及び ハウス作型【共通】 (PK ゴー) プレオフロアブル ベンレート水和剤	3000 1000 2000	300 リットル	水 100 リットル 展着剤 (ハイパワ-) 20 ml (PK ゴー) 33ml プレオフロアブル 100ml ベンレート水和剤 50g	茎枯病・株腐病 オオタバコガ、ハスモンヨトウ ネギアザミウマ
10月 上中旬	(PK ゴー) アピオンE ベルコート水和剤	3000 1000 1000	300 リットル	水 100 リットル アピオンE(展着剤) 100ml (PK ゴー) 33ml ベルコート水和剤 100g	茎枯病、斑点病、褐斑病

(1) 樹勢が低下し淡い緑色になっている園地は、9月上中旬の薬剤散布にPKゴーに代えてアミノメリット特青 500～600 倍を加用して葉面散布する。(展着剤不要)

(2) 茎枯れ病の発生が多い場合は、発病している茎を切り取り感染が拡大しないようにする。

(3) 9月以降の薬剤散布とあわせて、亜リン酸肥料の「P・K ゴー」3,000 倍液を加用して葉面散布する。

在庫でメリット赤がある場合、「PK ゴー」に代えて、メリット赤 300 倍を加用して葉面散布してもよい。
(メリット赤を使用する際は展着剤不要。)

(4) 農家在庫で「i c ボルドー66D」がある場合は、最終防除の「ベルコート水和剤」に代えて、IC ボルドー50 倍液で使用してもよい。但し、PK ゴーとは混用しない(ボルドー液との混用不可)。メリット赤との混用とする。

(5) 10月に入っても、オオタバコガの発生が多い場合は、「ベルコート水和剤」に「ディアナ SC5000 倍液」を加用する。

(6) 最終の薬剤散布は、薬剤の持続性を高めるため、展着剤アピオンEを添加する。

オオタバコガ発生状況

・現在、オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺数が増加傾向で推移しています。

場所によりオオタバコガの被害が多く発生しているところがあります。

近年、9月中下旬～10月上旬に最後の発生ピークが見られることから、9月の防除は散布間隔を空けすぎないようにしてください。

次頁もご覧ください

2. 必要茎葉量の確保と茎葉整理

茎枯病などの被害茎葉は、ほ場外への持ち出し処理をしてください。

立茎数の制限（必要茎数のめやす）

【1株当たりの目標立茎本数の目安】

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	4～5本	6本程度

＊草丈 150cm以上で、太さL 級程度の茎とする。
（1～1.4cm 程度）

【1m 当たり立茎本数の目安】

	夏秋収穫する園地	夏秋収穫しない園地
立茎数	15～18 本 （長期どり 12～15 本）	20 本程度

3. 排水対策

今後、秋雨により圃場内に水がたまる場合は、必ず排水溝を設けて停滞水の排水に努めましょう。

＊JAでは溝堀機の貸出し（半日当たり 1,080 円）をしています。希望される方は営農センターまでご連絡下さい。

4. 堆肥の施用

春収穫打ち切り時に堆肥を施用していない場合は、茎葉刈り取り後に施用してください。
（コーンコブ入り牛堆肥等 4t/10a 当り）

5. その他

- ・9 月以降の追肥はしないでください。

斑点病について 葉先が枯れ込んできている場合は斑点病の恐れ

主に擬葉や枝に発生するが、茎にも発生する。
初め紫褐色の小斑点が現れ、のちに拡大して、
楕円～紡錘形の病斑となる。

病斑は外側が紫褐色、内側が淡褐色～灰褐色。
ひどくなると細い枝から枯れ込んでくる。

擬葉の先端が枯れ込んでいる場合は、近くからよく
観察し、斑点が確認できたら斑点病の可能性が高いで
す。

斑点病の発生を確認したら
効果的薬剤（下表）から選択して、散布する。



斑点病に効果的な薬剤

農薬名	希釈倍率	注意点
バルコート水和剤	1,000 倍	収穫中の圃場は使用を避ける （収穫前規制が7日のため）
ラリー水和剤	4,000 倍	総使用回数に注意（2回以内）